

地域に刻印されるスポーツ実践の
インスティテューショナル・メモリー

小 林 勉
関 根 正 敏

体育研究 第47号 抜刷

2013年3月31日 発行

地域に刻印されるスポーツ実践の インスティテューショナル・メモリー

小林 勉
関根 正敏

1. はじめに：棚上げされる 各スポーツ団体の固有の歴史

総合型地域スポーツクラブの分析という、それを導入する地域のスポーツ活動を「現在」という切断面において焦点化し、既存組織の「歴史」については捨象されることがこれまで圧倒的に多かった。そこでは、総合型地域スポーツクラブが目指すものと重複するような活動が、既に地域の中に存在しているにもかかわらず、人々のスポーツ実践を支えてきた諸アクターについては等閑にされ、地域の中で刻まれてきた各スポーツ団体の固有の歴史が棚上げにされてきたのである。総合型地域スポーツクラブが志向する、これまでにない新しいオルタナティブなスポーツ活動が、長期的に現地に定着するような活動であるためには、新規の活動は既存の利害関係者との競合が少ないようなものでなければならないはずだが、総合型地域スポーツクラブの活動は、多くの部分で既存組織の活動と重複するにもかかわらず、地域の中に刻印されてきた種々のスポーツ実践の歴史については大きく見落とされてきたといつてよい。

こうした状況に対して、関根ら〔2009〕は、茨城県日立市塙山小学校区における地域住民組織の歴史に着目しながら、通時的な地域生活に規定される「言い分」〔鳥越、1997〕論の視角を援用することで、地域生活の背景と総合型地域スポーツ

クラブ設立に向けた人びとの行為を関連付けて捉え、現場で繰り広げられた説得と納得の様相を明らかにした。ただ、スポーツが実践されるコンテキストに既存組織を重ね、地域の「歴史」を視野に置いて総合型地域スポーツクラブを検討する研究は、一部にとどまり政策決定レベルの議論と噛み合うことはほとんどなかった。そのせいか、総合型地域スポーツクラブのことが活発に議論されているわりにはその理念だけが先行し、政策を押し進める地域の中で、既存組織がどのようなスポーツ活動を展開し、そうした活動と総合型地域スポーツクラブとの接点について、人々の実情を踏まえ検討しようとする議論は相対的に乏しい。

そこで本稿では、八王子市を事例に、市民のスポーツ実践を支えてきた諸アクターに焦点化し、八王子市の人々が構築してきたスポーツ体制について明らかにする。具体的には八王子市のスポーツ振興の一翼を担ってきた「八王子市体育協会」と「八王子市レクリエーション協会」を取り上げながら、八王子市の歴史に刻印される市民のスポーツ活動を、各団体固有の沿革が投影される「インスティテューショナル・メモリー」の視点から捉え返してみようと思う。既存組織の活動が、少なくとも理念の上においては、総合型地域スポーツクラブの目指すものとなりの部分で重複し、実際の活動においても、総合型地域スポーツクラブと類似の関係性の中に位置づけられるということを跡付けながら、地域の中で活動するローカル・アクターのスポーツ実践の実態を浮き

彫りにする。

2. 八王子市の歴史に刻印される 市民のスポーツ活動：八王子市 体育協会をめぐるスポーツ実践

八王子における市民とスポーツの関係は、昭和30年代以降、東京オリンピックの招致運動と相俟って大きく変化する。1959（昭和34）年5月、第18回オリンピックの開催地が東京に決定されると、八王子市は同年8月、自転車ロードレースの開催地として立候補し、翌月には選手村分村の誘致を当時の八王子市長が申し入れるなど、東京オリンピックの開催に向けて体育・スポーツ行政を進展させていく。1961（昭和36）2月に正式に大会コースとして決定され、東京・代々木のオリンピック選手村から離れていた自転車競技会場となった八王子市には「選手村分村」が設置されると、市民のスポーツへの関心が急速に高まった。海外選手団の滞在中は、市内にて様々な歓迎行事が行われ、海外選手団と市民との交歓会が積極的に開催された^(注1)。オリンピックと関係して1962（昭和37）年6月に東京都にスポーツ少年団ができると、日本体育協会、東京都体育協会、東京都教育委員会からの要請をもとに、八王子市教育委員会の協力を得て、1964（昭和39）年8月に市内でもスポーツ少年団の結団式が挙行された。19分団（地域分団2、種目別分団5、学校分団12）505名で編成され、このスポーツ少年団のメンバーたちは東京オリンピック自転車競技の式典関係において大きく貢献したりもした^(注2)。このように東京オリンピックの開催に前後する時期からスポーツへの関わり方が大きく変化し、この時期を境に行政によるスポーツ振興の原型が本格的に形成されていった。

東京オリンピックを契機としたスポーツ人口の増加と昭和40年代のコミュニティ・スポーツ構想の隆盛を受け、この八王子市の教育委員会事務局に体育課が設置されたのは1968（昭和43）年7月のことであった。しかしながら、行政のスポーツ

政策的な介入に先駆けて、八王子市では住民の間でスポーツの自発的なグループ活動が自然発生的に数多く芽生えていた。例えば「八王子市体育協会」の活動がそうである。現在、八王子市体育協会は、「広く一般市民を対象に、主に八王子市を中心とする周辺地域住民の体育スポーツの振興を図る活動、及び市民の体力・競技力の向上と指導者の養成に努める活動を行い、社会体育の発展に寄与することを目的」（定款第3条）に、37種目、37競技団で構成されている。

その前身は、1920（大正9）年11月に設立された八王子市体育会であり、1926（大正15）年10月に発行された『市政10周年記念誌』には、庭球や野球、柔道や剣道など9つにわたる各種目の代表者たちが、市民の体育向上を担い、市からの補助金と会費を元手に「民衆的な団体」として組織化された当時の創設期の模様が描かれている^(注3)。

本会は大正九年十一月市民の体育向上を目的とする極めて民衆的な団体として組織され、会員としては市内居住者、諸階級、諸職業を網羅している。現在会員八百。会長に市長を推す。庭球、野球、柔道、剣道、弓術、相撲、蹴球、卓球、自転車の九部を有し、各部夫々部長を選び各部の事務を処理し且つ其の発展の為に活動している。設備としては平岡町に柔道道場、明神町に剣道道場、八幡社境内に弓術部弓場あり、野球部は富士森グラウンドを庭球部は特設のコートを有せざるにより学校のコートを利用している。毎年市費補助金五百円、会員は年一円を会費として負担する。

会長 武藤文吾

副会長 小林吉之助

住民の自主性において取り組まれた体育・スポーツ活動のこのような組織化は、八王子市のスポーツ振興において非常に重要な位置を占め、後世の市民スポーツの展開にも大きな影響を及ぼした。1946（昭和20）年8月1日の空襲によって、こうした体育会の活動も一時的に下火となったが、戦禍と混乱の真っ只中にあった時代に、かつ

てのようにスポーツをしたいという夢を抱いた青年たちは、その再興に向けて具体策の構想を練り始めた。1947（昭和22）年5月、第1回の会合が市の斡旋により招集されたことを皮切りにして、市民全体のスポーツ活動の活性化を渴望する人たちの間で、数次の会合が行われた。その結果、八王子市体育会設立準備会が結成され、同年7月2日に開催された第1回評議員会で役員を選出と規約の制定が行われ、八王子市体育会が再発足した。その3ヵ月後の10月には、厳しい戦争が残した爪あとを少しでも払拭しようと、市民1,500名を集めて、「第1回市民体育祭」が開催される。終戦直後の焼け野原で食糧事情も悪い状況下、

「腹の減るのに何でやらなければならないかと…」〔東京都八王子市体育協会、1996：27〕と、当時のことを追懐する前体協副会長の言葉は^(註4)、それが単なる娯楽としての活動だけではなく、市民スポーツの再興の機会として活用されていたことを示すものといえる。様々な担い手を組織して取り組まれたこの大会は、各連盟の組織化を促し、その後の体育会の加盟団体の増加へと繋がっていく。

1997（平成9）年以降、トライアスロンとゴルフの2団体を加え、現在の八王子市体育協会は37の連盟で構成されている。2002（平成14）年10月には、NPO法人設立に向けプロジェクトを発足

表1 加盟団体の推移

年度	加盟数	加盟団体
昭和22年	9	軟式庭球、柔道、野球、卓球、空手、弓道、自転車、蹴球、相撲の9部で発足
昭和24年	11	小体連、中体連、釣り（この間、年度は不詳だが蹴球部脱会）
昭和25年	12	陸上競技
昭和26年	13	クレー射撃
昭和27年	15	剣道、スキー
昭和29年	15	ライフル射撃（この間、年度は不詳だが相撲部脱会）
昭和34年	16	山岳
昭和38年	17	ソフトボール
昭和40年	18	サイクリング
昭和42年	19	水泳
昭和43年	20	バレーボール
昭和45年	21	居合道
昭和46年	23	サッカー、バドミントン
昭和47年	24	乗馬
昭和49年	26	体操、アーチェリー
昭和50年	28	フェンシング、バスケットボール
昭和51年	29	合気道
昭和52年	30	少林寺拳法
昭和56年	31	なぎなた
昭和58年	32	硬式庭球
昭和61年	33	銃剣道
昭和63年	32	ボウリング（小体連、中体連は昭和62年に脱会）
平成元年	33	スポーツダンス
平成7年	34	ミニテニス
平成8年	35	武術太極拳

出典：東京都八王子市体育協会〔1996：74〕をもとに、筆者らが作成

させ、2003（平成15）年10月 NPO 法人設立総会にて正式承認を受けるに至っている。

表2 NPO 法人 八王子市体育協会 加盟団体

No.	団体名
1	八王子市ソフトテニス連盟
2	八王子柔道連盟
3	八王子野球連盟
4	八王子市卓球連盟
5	八王子市空手道連盟
6	八王子市弓道連盟
7	八王子スキー連盟
8	八王子釣部
9	八王子市陸上競技協会
10	八王子市クレ射撃連盟
11	八王子剣道連盟
12	八王子自転車競技連盟
13	八王子ライフル射撃連盟
14	八王子市山岳連盟
15	八王子ソフトボール連盟
16	八王子サイクリング協会
17	八王子市水泳連盟
18	八王子バレーボール連盟
19	八王子居合道連盟
20	八王子サッカー協会
21	八王子バドミントン連盟
22	八王子乗馬連盟
23	八王子アーチェリー協会
24	八王子市体操連盟
25	八王子市フェンシング協会
26	八王子バスケットボール協会
27	八王子合気道連盟
28	八王子市少林寺拳法連盟
29	八王子市なぎなた連盟
30	八王子硬式庭球連盟
31	八王子市ボウリング連盟
32	八王子市ダンススポーツ連盟
33	八王子市ミニテニス協会
34	八王子市武術太極拳連盟
35	八王子トライアスロン連合
36	八王子アマチュアゴルフ連盟
37	八王子アマチュアボクシング連盟

出典：八王子市スポーツ振興基本計画策定委員会〔2004：79〕より抜粋

ところで、空襲で壊滅状態となった状況から一転して、スポーツ実践へ向かう当時の人々の姿を模索してみると、そこには非常に敬意を払われるリーダーシップを取れる人材がいたことに気付く。例えば、八王子市体育協会の創設期を知るメンバーたちによる座談会での「E会長というのは、非常に温厚で敵のない人なんですよ。」〔東京都八王子市体育協会、1996：33〕といったコメントや、「(M会長は)温厚な方でしたよね。私なんか若いうちから話してもちゃんとお話聞かれるしね。」^(註5)〔東京都八王子市体育協会、1996：34〕といった歴代会長への述懐は、そのことを浮き彫りにする。もともとは近隣関係、あるいは連盟内での信頼関係の中で選ばれてきたリーダーたちが、各方面からの支援を取り付けるために、人よりも多く心血を注いだりし、市民スポーツの拡大に大きく貢献してきた。体育会を結成した数々の人々は、行政によって選ばれることで権威付けされたリーダーシップではなく、コミュニティやそれぞれの連盟内で経験的に涵養されたリーダーシップを携えた「労を執る個人」ともいえる存在であり、各連盟ともそうしたキーパーソンを中心に「独自の歴史」を刻んでいった。中には会長職への支持と自身の政治活動の取り込み手段を重複させる活動をした者もいたが、そうしたメンバーにおいてさえも体育協会の発展を望む傾向があったことに違いはなかった。(以下は、八王子市体育協会の創設期を知るメンバーたちによる座談会にて吐露された歴代会長への述懐部分を抜粋〔東京都八王子市体育協会、1996：34-35〕。なお、丸括弧部分は筆者らによる加筆。)

O氏： T(会長)さんは都議会議員の関係かね。そんなことで会長になりたいと…2回ぐらい呼ばれて、ぜひ推薦してくれということがありましたけれどもね。

S氏： あの(T会長)は東京都議会自民党幹事長までやった人だから政治手腕があったので、私たちはあと役員をやったときにいろいろ前会長のやり

方について批判もあったのですが、それに対して今度はどういうふうにしようかというふうな規約改正とか人事の面などを参考にしますと、やはり鋭いとか切れ味のいい素晴らしい会長だったなど私は個人的に思います。ただ、個人的にちょっと個性が強かったのも、それに合う人と合わない人がはっきり区分けになったんじゃないかということですよ。ともかく体育協会を一所懸命発展させようというような努力をしていたことは、私は認めたいと思いますね。

K氏： T（会長）さんの場合は、～中略～非常に切れる方ですね。先も見えるし気性も激しいかもしれませんがせんけれども、確かに「見通し」ということにおいてはいままでの会長にはない鋭いところがあった。

現在まで語り継がれる歴代会長の功績は、八王子市のスポーツ振興という共通の目的を達成するために、地域固有の暮らしの中で生み出されてきたリーダー層が牽引役となって自発的に組織を形成し、住民自らの力で担い手組織を運営していたことを物語る。そしてスポーツを通じて繋がるネットワークの中から間歇的に出現するキーパーソンの重要性とその功績については、連盟レベルにおいても同じであった。例えば、野球連盟から「思い出の人々」と題して『八王子市体育協会50年史』に寄せられた文章は、八王子の野球を長らく支えてきた故人の足跡に贅辞を呈するものであった。

思い出の人々

軟式野球の普及と発展に努力を重ねた多くの先輩がいます。連盟の基礎を作られた初代野村幸次郎会長には敬意を表する次第ではありますが、特に二代目遠藤静輔会長の働きには思い出深いものがあります。名物審判の名高った（原文ママ）粕谷藤治、今福桃太郎、松本武雄の各氏を筆頭に大高末之助、野和田正一、現会長設楽秀雄の各氏を要職に配して昭和32年から19年間会長として常に和をモットーに今日に

連盟の実質的基盤を整備確立されたのみならず、この間昭和46年から八王子市体育協会長並びに東京都軟式野球連盟副会長を兼務し病を得て亡くなる昭和51年まで勤められ、野球のみならずスポーツ全般に渡りその振興に尽くされた功績は後世に語りつがれ我が野球連の誇りと云っても過言ではありません、又連盟発足当時から遠藤さんと一緒に陰に陽に協力おしまず野球一筋であった四代目松本武男会長も忘れ得ぬ一人で、野球をこなく（原文ママ）愛し自宅にまで多くの後輩を呼び育てられ、会長として創立40周年を祝ったのを最後に通算50年に及ぶ野球人生を閉じられましたが私達の脳裏にはあの眼鏡越しに連盟や審判の道を説いた姿が今も浮かびます。そして松本さんの一番弟子とも云える末岡昭氏の事も語り残したい一人です。当連盟にソフトボール部が設けられた昭和24年から親身になって基礎作りから手掛け38年に分離独立を行ないソフトボール連盟の総務・理事長・副会長を歴任、又体協のソフト評議員、理事としての活躍更に当連盟の総務、副理事長、副会長も歴任したのみか東京都の野球連盟評議員を10年、ソフトボール連盟の理事を8年間も一人三役ならず一時は五役を頑固一徹完全に成し遂げ亡くなる平成6年10月（行年66才）まで38年間の永きに亘り尽力され今日の両連盟の発展に寄与された功績は特筆されるものであり、我が連盟として誠に代え難いおいしい人物を失い氏を襲った病魔はあの五役の激務故ではなかったかと思うと残念でなりません。ここに50年の節目を迎え前述の3氏をはじめ多くの話題と貴重な足跡を残され心成らず亡くなられた諸先輩の遺訓を偲び心よりご冥福をお祈り致します。

[東京都八王子市体育協会、1996：88-89]

このように、八王子市のスポーツ行政が本格的に始動する以前、八王子市体育協会をはじめ各連盟を支えたキーパーソンの活動は、スポーツ活動を市全体に浸透させていく上で決して小さいものではなかった。地域の中で繰り広げられるスポーツ活動は、こうした有力者層の人的ネットワークに大抵の場合不可欠に結びついており、普通の人々にとって必ずしも馴染みがなくとも、精力的

に活動する人によっては活動を下支えする重要な交渉窓口ともなり、人脈やコネといったあらゆる共同体的関係が、地域でのスポーツ場面におけるインフォーマルな社会的・経済的やりとりを支えていた。そしてその回路網は余所者が一挙に学べるものではなく、周囲の関係者の身の処し方をみたり活動を共にする中で習得される「生活の一部」の中に埋め込まれたものであった。

種目ごとの組織化が軌道に乗り出すと、それぞれの連盟が指導員教育、初心者向けの教室を開講したのを手始めに、いくつかの連盟では女性を対象とした活動も始まった。ただし、各連盟においては八王子市全体を包括するスポーツ振興の視点をもっていただけではなく、むしろ個々の種目レ

ベルでの発展を望むかたちで、自分たちが愛好する種目の底辺拡大と技術向上を目指した活動が絶えることなく実行されてきたといえる。ここで、いくつかの連盟における歴史、行事・大会について概観してみよう。

大正からの歴史を有する連盟、創立に向け準備金を出しあった連盟、地区・市・都レベルでの連合組織への参加、婦人部の発足等にみられる連盟内の組織統合・再編、独自の養成講座や大会の企画・開催といった、各連盟の固有の小史が示すように、八王子市のスポーツ振興を構成する組織や事業は、種目を軸に「過去から現在への高い連続性」を保ちながら進められてきた。そして、こうした主体形成は決して短期的な振興事業によって

表3 八王子市体育協会傘下の主要連盟における主な足跡

団体名	主な歩み	主要な行事・大会
卓球連盟 加盟団体数及び加盟 会員数：84団体770名	昭和21年に発足し、昭和33年には八王子卓球連盟会館を設立。昭和51年には創立30周年にあたり、八王子市長および毎日新聞社より表彰（感謝状）を受ける。昭和55年には、「自ら家庭層の卓球の普及、技術の向上に努め卓球を通して健康の増進、地域社会の活動並びに会員相互の親睦を図る事を目的」として、家庭婦人部を発足。昭和60年、連盟創立40周年式典開催。	八王子市民卓球選手権大会、八王子市民体育大会、八南地区卓球選手権大会、八王子市チームリーグ戦、市民卓球フェスティバル、八王子市中学校招待卓球大会、桑の実カップレディース卓球大会、家庭婦人卓球講習会等
バドミントン連盟 加盟団体数及び加盟 会員数：35団体850名	昭和46年に発足。創立当初については次のような回顧の記述が残されている。 「金500円也の協会設立準備金を出しあって、有志は東奔西走し、八王子市体育協会、三多摩、東京都、日本バドミントン協会への加盟、スポーツ少年団分団の結成、指導員育成、体力づくり推進運動の推進協力、指導員、審判員の養成、大会、講習会の開催に関する打ち合わせ、連絡、準備、実施、評価反省等、1日50時間位欲しいと思うような忙しさであった。」 〔八王子市体育協会、1996：156〕 昭和49年には家庭婦人八王子クラブが発足。	八王子オールダブル大会、八王子オープンシングルス大会、市民グループ団体戦（前・後期）、八王子シングルス・ミックス大会、一泊研修会、八王子新春大会、初心者教室、八王子家庭婦人バドミントン技術講習会、スポーツ少年団定例練習会等
野球連盟 加盟団体数及び加盟 会員数：270団体4,815名	昭和11年8月、全日本軟式野球大会八王子予選会において八王子市機関庫チームが優勝したのを機会に野球団体の組織化を要望する声が高まり、昭和13年6月に、10余りのチームの参集を得て八王子野球協会が結成される。昭和16年に東京都軟式野球連盟に加盟し、八南支部を兼ねたが、戦争により活動を中断。昭和21年8月に再出発し、昭和24年度都市対抗予選を機会に八南軟式野球連盟を発展的に解消して硬式及び軟式野球とソフトボールを含む一大組織としての八南野球連盟が誕生し、その後、昭和30年に八王子野球連盟と改称。昭和38年にソフトボール部が分離し、八王子ソフトボール連盟が誕生。	八王子市少年野球大会、市民体育祭、少年学童新人戦、南多摩親善野球大会、東京都知事杯争奪戦、公認審判員及びチーム側審判講習とルール講習会等

出典：東京都八王子市体育協会〔1996〕をもとに、筆者らが作成

実現されるものではなく、多くのアクターによって担われる当該社会の特有の歴史的経緯のもと、組織内の内発的な求心力を経験的に強化する連続的な機会を蓄積することで実現可能となっていた。そのことは戦後のGHQの民主化政策によって学校剣道の禁令が出された際の剣道連盟の対応を見ると、さらに明白となる。

当時高井戸にあった岡田守弘先生の道場では警視庁最高師範の道場と云うことで、GHQから稽古が許されていると云う情報と、フィリピンでマッカーサー元帥をゲリラから救ったお礼にと、目黒区衾町の安倍正人さんには、その神社の境内での剣道大会を行うことが許されていた、と云う情報も得た。当時剣道の出来たのは、この2カ所だけであったとのことであった。このため岡田道場には剣道名譽の先生方、高野茂義、持田盛二、笹森順造、小野十生などの大先生方が集り稽古に励んでいたとのことであった。以上のような情報は得られたものの、未だ禁止令は解除されておらず、正式に稽古が出来る状況ではなかった。昭和26年3月戦災で焼野原の、未だ復興されていない、市内のスポーツ店の蔵の二階に数名の剣道愛好者が集まり、わずかな情報をたよりに、桑都剣道連盟を結成した。会長に天然理心流の田中利一、副会長小坂茂三、師範市川将星、総務柴田正次、内田雅男、秋山幸穂、顧問に武内宗十、安田文三郎、橋本一馬、平林長四郎、藤本栄一、竹松健など20数名の陣容によって活動を開始した。稽古は八王子警察署の道場を借りて行うこととなった。岡田道場等の情報は得ながらも、未だ剣道に対する制限措置は解除された訳ではなく、何時GHQからの呼び出しを受けるかも知れないという状況で、若し呼び出しがあった時は誰が出頭するかと覚悟を決め、悲壮な思いで稽古をしていたものであった。

〔東京都八王子市体育協会、1996：118〕

GHQ占領下での「隠れた」スポーツ活動について、近隣住民や体育協会の人々の中にどのような意見があったのかを示す資料はないため、当時の関係者たちがいかなる反応を示したのかを知る

術はない。しかしながら、この回顧録から浮かび上がってくるのは、剣道の禁止令解除が遅々として進まない状況下で、GHQの監視の目の間隙をすり抜けながら、市内のスポーツ店や地元の警察署という身近な等身大の相互扶助活動を通じて、自らできることを適宜適当なかたちで実行に移し、稽古を続けていこうとする剣道愛好者たちの能動的な働きかけである。それは外部からの影響を受けつつも、自分たちが愛好する種目内で交差する紐帯と集団によって、長い時間をかけて等身大の変化を起こしてきた八王子市民が編み出した、まさに地域に暮らす「当事者」としてのスポーツ実践の姿であった。

3. 市内におけるレクリエーション運動：生涯学習NPO八王子市レクリエーション協会の展開^(注6)

GHQが剣道の禁止令を布いた傍ら、占領政策の一環として、「疲弊した日本人の活力をよみがえらせる」〔日本レクリエーション協会、1998：22〕施策の一つとしてレクリエーション運動を積極的に支援したことはあまり知られていない。戦前には厚生省の所管とされ、戦力増強をねらいのひとつとして推進された一般社会人の体育が、文部省の学校体育と一元化して再出発し、終戦後の1946（昭和21）年9月に、日本厚生協会は文部・厚生両省の共管する「日本厚生運動連合」に改められた。1947（昭和22）年には任意団体の日本レクリエーション協議会が結成され、翌1948（昭和23）年3月、この団体は文部省の所管する財団法人日本レクリエーション協会として法人化される。この日本レクリエーション協会が結成されてから1960年代におよぶ時期は、「GHQ（連合国軍総司令部）のCIE（民間情報教育局）による占領下の民主化政策の影響を発端に、それを引き継ぐ管制主導のレクリエーションの啓発活動が展開され」〔日本レクリエーション協会、1998：25〕、この間に日本レクリエーション協会は、その後のレクリエーション運動へと導く礎を築いていくこと

になった^(注7)。1951(昭和26)年9月、東京都レクリエーション連盟の結成に、千代田区など6区市のレクリエーション協会とともに「八王子市レクリエーション協会」が設立された。しかしながら、当初の加盟団体として八王子市レクリエーション協会が参加していた事実は確認されているものの、その組織の全容や活動内容の詳細については不明な点も多く、もとよりそれは現在の傘下団体を多数有する組織の風体をなしていなかった。八王子レクリエーション協会がレクリエーションの普及を目指し、市内全域で実質的に稼動する組織として現在の形をとるまでには、それから20年余りの歳月を要さなければならなかった。都道府県レクリエーション協会の設立年次をみると、昭和20年代に15都道府県、昭和30年代に7県、昭和40年代に18県、昭和50年代に5県、平成になって2県となっているが〔日本レクリエーション協会、1998:76〕、八王子市において本格的な準備が始まったのは、1969(昭和44)年の「フォークダンスの会」と「市民歩こう会」の2団体を中心とした市民への呼びかけのときであった。これをきっかけに、1970(昭和45)年5月に第1回市民レクリエーション大会が開催され、1972(昭和47)年12月、「市民体操の会」、「ユースホステル研究会」、「レクリエーション指導者研究会」が先の2団体に加わり、レクリエーション協会の発足総会が開かれた。この模様は、以下のようなものであった。(以下は、八王子市レクリエーション協会創立35周年記念誌『あゆみ』に寄せられた当時の会長による回想録である。)

思えば、38年前の昭和44年の12月2日、当時、体育指導委員だった川幡清子さん、故沖倉壬生男さん、池田周子さん、故丸山一男さん、そして私の5人が発起人になり、「八王子にレクリエーション団体をつくろう。」と、ガリ版で作ったビラを教育委員会が主催する講習会の会場で配布させていただいたのが、レクリエーション協会づくりの初めの第一歩でした。昭和45年2月4日には125人の賛同者を得て、「フォークダンスの会」と「市民歩こう会」の、待望のレク

リエーション団体が2つ揃って産声をあげたのです。当時は天神町に木造の教育研究所があって、寒い会場でしたが、だるまストーブを囲んで“夢”を語り合ったものでした。顔ぶれは、川幡清子さんと故丸山一男さんのほか、歩こう会の高橋美征さん、ユースホステル研究会の三本勲夫さんと石井清治さん、体操の会の故新藤辰昭さんなどでした。昭和47年12月4日には、同じ教育研究所で5団体による設立総会を開き「八王子市レクリエーション協会」が誕生したのです。

〔八王子市レクリエーション協会、2008:1〕

こうして1972(昭和47)年に、現在へと連なる「八王子市レクリエーション協会」が設立される。昭和40年代以降には全国に多くのレクリエーション指導者が誕生し、地域における市民のスポーツの新しいスポーツへの取り組みを代弁する言葉として「トリム」が拡がり^(注8)、こうしたトリム運動の普及を背景に、市町村レベルにおいても民間団体との提携によって新たなレクリエーション団体の結成が市民に呼びかけられていった。都道府県レクリエーション協会の設立においては、行政から働きかけられるケースが多くみられ、市町村レクリエーション協会の設立においても同様のケースはあったものの、市町村レクリエーション協会の場合には、むしろ都道府県以上に現場での公認のレクリエーション指導者の活躍が顕著であった。レクリエーション活動の普及活動は行政に頼りつつも、公認指導者の努力に負うところが大きく、レクリエーション指導者クラブや研究会など、公認指導者を中心とする組織が拡大し、市町村レクリエーション協会として発足する事例も少なくなかった〔日本レクリエーション協会、1998:78〕。八王子市レクリエーション協会の場合も、創設後まもなくは八王子体育協会と隣接しながら、「市教育委員会体育課に机1脚とスチール戸棚1個を借用して、居候をしていた」〔八王子市レクリエーション協会、2008:42〕状況であったが、1981(昭和56)年に事務局を独立させて独自の活動を開始する。事務局の空きスペース

を活用して講座を開講し、ギター教室や英会話、華道や書道、健康体操などができる「八王子カルチャーセンター」を開設するなど^(註9)、趣味や稽古ごとの多様な教室を、安価な費用で提供する事業を始めたのである。すでに1979（昭和54）年4月には、レクリエーション指導者養成のための長期講座を開講し、レクリエーションの専門課程をもつ私塾の学園として、レクリエーション上級指導者資格が取得できる「課程認定校」の認証を受けた「八王子レクリエーション学園」を開設していたが^(註10)、加えて、「いちよう祭り」と称される市民イベントの中心的な役割も担うようになっていた。いちよう祭りとは、30万人の市民が集う秋の市民まつりのことであり、山車、神輿と花火の夏の「八王子祭り」と並んで、八王子を代表する2大祭りとして今では市民の中に定着している。協会主導でこの祭りに取り組むようになった経緯については、次のようなエピソードが残されている。

市民の間で話題になった「いちよう祭り」を継続する市民祭りにしていこうということになり、協会主導で取り組むことを理事会で申し合わせました。祭りを継続するためには、ヒト、モノ、カネなど難題が横たわっていましたが、いちよう祭り祭典委員会の会長に加地会長を、実行委員長に大野副会長、事務局長には理事長の川幡清子氏を内定して、準備が始まりました。ところが、瞬く間にレク協会事務局はいちよう祭りの書類で埋まっていまい、結局、大野副会長所有の当時はプレハブだった追分町の事務所に引っ越すことになったのであります。その後も、毎晩協会事務局に役員が集まってきて真剣な討議や準備作業が続くのでありますが、事務局長の丸山正氏ほか東條毅氏、橋本昭三氏、故藤本善彦氏、故野口庫三郎氏、故丸山一男氏の顔がよく見えていました。いちよう祭りは参加型の祭りなので、市民に「通行手形」を買っていただいて祭りの資金にしようと、役員や指導者が分担して、地図を片手に町会長宅を訪問して「いちよう祭り」の意義を訴え、通行手形の申込書の町内回覧を要請しました。また、

市民は祭りの期間中に通行手形を持って歩き、いちよう並木の続く甲州街道沿道の13か所の「関所」で焼き印を押して貰う訳ですが、炭火で焼くやり方ではとても間に合わないと、当時「スケートすべろう会」の副会長だった故倉林善之助氏が考案した電気焼きゴテを採用することになりました。市からも助成金が交付されることになり、昭和56年11月21日～22日に「大正70年」をテーマに念願の第2回の開催にこぎつけ、継続する「いちよう祭り」としてスタートすることができました。

〔八王子市レクリエーション協会、2008：44〕

自分たちの地域の余暇活動の充実を目指す人々が一致協力し、参加型の市民まつりを実現する体制作りへ向け、レクリエーション協会のメンバーが手を尽くすあり様は、現在推し進められる総合型地域スポーツクラブの掲げる「住民主導」をあらかた体現したような運営方法といえるものだった。そして、この住民主導による具体的な活動の運営方法は、テキストブックから体系的に学ぶものではなく、周囲の古参のやり方を見たり手伝ったりしながら習得するものであった。協会の当時の常務理事らが創立35周年記念誌に寄せた文章には、組織を担う世代から世代へとノウハウが脈々と継承される様相が示されている。

理事職を10年そして現在新米の常務理事として先輩の方々に、いろいろ教えて頂いているところでございます。～(中略)～「レクリエーション協会？ってどんな会で何をしている団体なのか」入ってびっくり、私が聞く競技団体や、文化系の多くの団体が、それぞれアクティブに活動されており、その一所懸命さに胸をうたれました。その第一印象が今も私の心のささえとなっておりま。現在組織部長として加盟団体さんとの連絡調整、入会の窓口業務を主にこなしておりますが、これからの時代、こどもさんからお年寄りの方まで、生涯学習・生涯スポーツであり、まさにレクリエーション協会が市民の皆様の為にますますお役に立てると確信しております。一人（一団体）でも多くの方々にご入会頂き、レクリ

エーションの楽しさ、素晴らしさを知っていただき「生きがいづくりの糧」としてご利用賜れば幸いです。

〔八王子市レクリエーション協会、2008：9〕

若い頃から山歩きや、スキー、キャンプなどを楽しんでいました。そんなこんなで、子ども会やボーイスカウトのお手伝いをしたり、体育指導委員になったりしていたので、レク協にも早くから顔出ししたり、いろいろ推して頂いたりしていました。大横町の狭い事務所…。なつかしく思い出します。平成六年にグラウンド・ゴルフ協会を作り、レク協に加盟しました。織物組合の中の事務所に出入りしながら、囲碁教室を始めました。八幡町の便利な場所で大盛況でした。丸山会長のお言葉もあって、受講者を誘い、囲碁を楽しむ会を結成し、現在に至っています。

〔八王子市レクリエーション協会、2008：9〕

協会運営に携わるこのような人々の努力もあって、1975（昭和50）年にはレクリエーション指導者認定会や親子レクリエーションの集い、社交ダンス初心者講習会などの事業が開始され、1981（昭和56）年には市民ゲートボール大会が実施された。翌1982（昭和57）年には、カルチャーセンター（12教室）や学校レクリエーション指導者研修会がスタートし、レクリエーション協会の10周年式典において「市民レクリエーション宣言」が採択される。

市民レクリエーション宣言：

レクリエーションは、人間の生活に欠くことのできない、心身の健康と、自然を愛し、人と人とのふれあいをはかり、より豊かな生きがいを求めて行なうすべての行動であると言えます。わたしたちは、1人1人の市民がもつレクリエーションの心を結び合わせ、市民のための、市民による、市民レクリエーションを旨として、研さんを重ねてまいりました。これからも、八王子市民だけでなく、すべての人類が、平和で文化的な、楽しい生活をおくることがで

きますよう、レクリエーション運動の担い手として、近隣都市の方々、都民、国民、そして全世界の人々に対し、共にレクリエーションの発展をよびかけ、友情の輪を広げてまいりますことを宣言いたします。

昭和57年12月5日

八王子レクリエーション協会

同協会はこうした活動や種々の事業を通じて、専従の事務局職員をもつ独立した経営体として成功を収め、市町村レクリエーション協会の「先進的モデル地域」として全国に紹介される機会も多くなっていった。協会事業の拡大に伴い、広報紙「レジャー&レク」も発行され、市民に無料で配布されるようになった^(注11)。

平成になると、市民サービスをさらに精力的に進める動きが出て、地域住民の生活に直結した一層きめ細かな対市民サービスが行われ始め、全国親子健康づくり大会、全国一斉ウォークラリー大会、全国いつでもチャレンジ・ザ・ゲーム大会など、テーマ型イベントが盛んになっていった^(注12)。1993（平成5）年には八王子市レクリエーション協会の創設20周年記念集会が開かれ、『あゆみ二〇周年記念誌』が刊行される。2002（平成14）年にはNPO法人として東京都から認定され、その際は、次のような目的や事業内容が掲げられた。

（目的）

この法人は、不特定多数の市民を対象に、生涯学習・生涯スポーツの振興、福祉の増進、子どもの健全育成、まちづくりの推進等に関する事業を行うとともに、これらの活動に関する指導者の養成と団体等の育成に努め、もって市民の余暇生活の充実と健康増進、生きがいの高揚に寄与することを目的とする。

（特定非営利活動法人八王子レクリエーション協会定款・第3条）

（事業）

この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として次の事業を行う。

- ①スポーツに関する大会及び講座の開催
- ②文化・芸術活動等に関する講座及び行事の開催
- ③スポーツ及び文化・芸術活動等に関する指導者の養成
- ④福祉に関する援助者の養成と活動支援
- ⑤子どもの健全育成に関する事業の開催及び協力
- ⑥まちづくりに関するイベントの開催及び協力
- ⑦スポーツ及び文化・芸術活動等に関する広報と啓発
- ⑧スポーツ及び文化・芸術活動等に関する団体の育成と連絡調整
- ⑨その他、第三条の目的を達成するための事業
(特定非営利活動法人八王子レクリエーション協会定款・第5条)

八王子市で総合型地域スポーツクラブ推進の動きが本格化した2004（平成16）年度の主な活動をみると、次のような事業内容であった。

また、平成16年度の通常総会で強調された重点事業については、以下の事業計画がたてられた^(注13)。

本法人の経営三原則である公益・公開・公平性の確立と、事務局体制の見直しや業務決定事務の簡素化により経営組織の健全化を図るとともに、市民活動組織（クラブ・協会等）の加入を促進して統括機能をさらに充実させ、役員、専門部委員など法人のスタッフが会議や機関紙、インターネットなどを通して情報を共有し、担当する事業を主体性をもって確実に遂行しなければならない。また、国や関係機関の事業の受託と、行政や友好団体との協働をすすめながら、指定管理制度を見据えて「公設民営」に対応できる体制づくりを急ぎ、時代の求めに応じた質の高いスポーツ・レクリエーションサービスを提供していきたい。特に、文部科学省の「スポーツ振興基本計画」、東京都の「東京スポーツビジョン」及び八王子市の「スポーツ振興基本計画」に基づいて、総合型地域スポーツクラブの創設を、友好団体との協働により、加盟団体や公認指導者とともに具体的な取り組みを進めたい。

この事業計画からもわかるように、八王子市レクリエーション協会は、総合型地域スポーツクラ

表4 2004（平成16）年度の八王子市レクリエーション協会の主な活動内容

生涯スポーツの開発普及、市民の健康増進に寄与（45万円）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 市民スポーツ・レクリエーション大会の企画、運営（18種目、5,000名） ◇ 総合型地域スポーツクラブの創設（1,200名）：仮称としてスポーツ・レクリエーションクラブ八王子 ◇ 生涯スポーツの開発普及（2種目、60名）
文化・芸術活動等に関する講座及び行事の開催	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各種市民講座、カルチャーセンターの拡充（45教室、250名） ◇ 余暇生活相談所の開設検討
スポーツ及び文化・芸術活動に関する指導者の養成（75万円）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 指導者養成講座の開催（60名）、システム整備 ◇ 学習支援センターの機構整備 ◇ 有資格者団体相互の連携、調整（仮称「八王子スポーツ・レクリエーションコンベンション」の開催検討
福祉に関する援助者の養成と支援活動（4万円）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 福祉レクリエーション活動の普及 ◇ 援助者（福祉レクリエーション指導者）の養成（20名）
子どもの健全育成に関する事業の開催及び協力（30万円）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校完全週休二日制に関する事業の開発 ◇ 子ども学園の充実、運営見直し
まちづくりに関するイベントの開催及び協力（105万円）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 各種イベントの企画、運営。いちょう祭り（第25回記念）の内容充実等 ◇ 祭典等への協力
スポーツ及び文化・芸術活動に関する広報と啓発（41万円）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 広報媒体（月刊誌、HP等）の内容充実 ◇ 事業内容開示の推進
スポーツ及び文化・芸術活動等に関する団体の育成と連絡調整（123万円）	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 生涯学習・生涯スポーツ団体の組織化 ◇ 加盟団体の拡大、連携強化

出典：瀬沼〔2004〕

ブの設立が八王子市で目指され始めた2004（平成16）年度以降もその役割を大きく変化させることなく、多彩な市民講座やイベントを定期的に主催してきている。活動理念や対象とする市民層、活動事業の内容が重複する総合型地域スポーツクラブ育成事業の推進に、その活動領域の大幅な縮小を余儀なくされるどころか、さらには文部科学省が推進した「子どもの居場所づくり」事業として、「子ども体験塾・サタディあそびの広場」を展開するなど^(注14)、余暇活動の充実、健康づくり、生きがいづくり等の活動を目的とする生涯学習活動やスポーツ振興に取り組む組織として、むしろその活動領域を拡げてきているともいえる。

このように、市民のレクリエーション活動を支

える「八王子市レクリエーション協会」の活動内容はかなり幅広く、種目別レクリエーション団体ごとに、具体的には様々なレクリエーション種目の普及活動という面を持ちながら、目的に応じて世代別や性別ごとにまとまりをもって結成されている。その後、2008（平成20）年には協会創立35周年を迎え、『あゆみ：八王子市レクリエーション協会創立35周年記念誌』が刊行されるなど、今では文化、芸術部門を含む40を超える団体で構成される八王子市の生涯学習に関する一大組織となっている。

表5 特定非営利活動法人八王子市レクリエーション協会加盟団体一覧

No.	団体名
1	八王子フォークダンス連盟
2	八王子市民歩こう会
3	八王子レクリエーション研究会
4	八王子市民スケートすべろう会
5	八王子アマチュア奇術クラブ
6	八王子社交ダンス協議会
7	民舞太鼓花乃実会
8	八王子インディアカ協会
9	八王子ゲートボール協会
10	八王子太極拳連盟
11	八王子レクリエーションダンス連盟
12	八王子ベタンク協会
13	八王子早朝野球連盟
14	八王子ラウンドダンス DSC
15	八王子市ターゲットバードゴルフ協会
16	八王子歌謡連合会
17	小田野太鼓連合会
18	あじさいの会
19	日本健康太極拳協会八王子
20	中高年からのレクを楽しむ会
21	八王子レディースバレースポーツクラブ
22	八王子トリム体操連盟
23	八王子グラウンド・ゴルフ協会
24	八王子囲碁を楽しむ会

No.	団体名
25	八王子余暇生活開発士・相談員会
26	八王子キャンプ協会
27	八王子レクリエーション・インストラクター会
28	八王子走ろう会連盟
29	八王子バウンドテニスクラブ
30	八王子折り紙の会
31	八王子大道芸の会
32	咲の会
33	八王子市子供会育成団体連絡協議会
34	八王子福祉レクリエーション研究会
35	八王子福祉レクリエーション・ワーカー会
36	国際スポーツチャンバラ協会（八王子会）
37	八王子マジックグループ
38	男波会（おなみかい）
39	桑都和太鼓連絡会
40	八王子レクリエーションパレエ連盟
41	若草民謡会
42	フラ・ひまわり会
43	元気会
44	ジャージィ洋裁（HOKOの会）
45	真奈葵会民謡三味線
46	八王子レクリエーション・コーディネーター会
47	八王子フラダンス・モキハナの会
48	ハウオリ・フラ・グループ

出典：八王子市スポーツ振興基本計画策定委員会〔2004：80〕より抜粋

4. 八王子市の市民スポーツに刻印される「インスティテューショナル・メモリー (Institutional memory)」

これまで跡付けてきたように、八王子市のスポーツ振興を構成する組織や事業は多くのアクターによって担われ、そのネットワークは野球や柔道といった種目ごと、あるいは体育協会やレクリエーション協会といった組織の境界ごとに地域の中で張り巡らされてきた。このネットワークは地域社会全体にわたって網目状に広がっていて、一つの世代で途切れるようなことのない、それぞれの団体が刻んできた「インスティテューショナル・メモリー (Institutional memory)」とも言える小史を持っている。体育協会やレクリエーション協会といった市民スポーツ組織は、多摩地区、東京都、中央省庁と縦の系列でも繋がっており、地域のスポーツ行政サービス的一端を担っている。そして、大半の担い手組織は、自分たちが愛好する種目の領域内で、そこで交差する紐帯と集団によって組織化され、自分たちが愛好する種目に肩入れしながら、その楽しさを享受する活動が絶えることなく実行されてきたのである。

また、ここまで通覧してきた歴史が明らかにする市民スポーツの実相は、スポーツへ引き寄せられる人々は、「スポーツ」という複合的で抽象的な活動ではなく、たとえ種目の選択に可変性があったとしても、それはあくまで自分の欲求に見合った具象的な特定の「種目」に参加するということであった。各連盟の担い手たちは「スポーツ」や「レクリエーション」という複合的な「総体」のために活動しているわけではなく、具体的な「種目」に引き寄せられており、その活動の基本姿勢は自分の愛好する「特定の種目」という縁取りに足場を置いているということだった。その足場を軸に、自らが判断し、活発に自ら活動を実践していくという能動的な存在であったことが確認できる。そして、種目をベースに行政機関やス

ポーツ連盟等の関係機関と繋がりのある指導者層を中心として個々に運営支援を行ってくれる側に働きかけ、種々の便宜や活動経費の補助といった経済的インセンティブが与えられていることが組織としての活動を活性化させていたということだった。

このように、八王子市における市民スポーツの世界は、様々な程度に制度化された集団、組織というかたちをとってコミュニティの空間に一定の位置を占めている。それらは必ずしも同質的あるいは相補的に連帯した集団ではなく、影響力の大きさも方向性も異なる多様なネットワークが形作る社会力学的な「磁場」をなしながら、当事者たちのスポーツ実践を持続的に展開するために運営されてきた。個人を取り巻くミクロな磁場をなすそうしたスポーツのネットワークは、当事者たちのスポーツ実践を支える仕組みとして地域に張り巡らされ、様々な場面で力を発揮しながら、現在に至る八王子のスポーツの光景を大きく象徴している。同時に、人々が構築してきたスポーツ体制は、少なくとも理念の上においては、総合型地域スポーツクラブが目指すものとかかなりの部分で重複し、実際の活動目的においても、総合型地域スポーツクラブと極めて類似の関係性の中に位置づけることが可能といえるものであった。そのような進歩的な制度を導入できた理由は、市民スポーツの普及に機能しうる体制をほとんど備えていなかったもので、比較的自由に団体を組織化できたことがあげられる。すなわち、このような団体の組織化は、八王子市に暮らす人々が織り成してきた固有のメカニズムであり、八王子という地域の文脈における「スポーツやレクリエーション活動の場をいかに構築するのか？」という課題に対するひとつの回答例といえるものだった。スポーツや余暇活動をめぐり地域の中には、こうした「見えない力」が縦横無尽にはしっており、スポーツやレクリエーション組織は何らかの歴史的世界に包摂されながら、一定の密度をもってその外側から区分されるようなネットワークによって構成されている。

5. むすびにかえて：従来の議論に欠けていたものとは？

本稿で述べようと努力してきたことは、市民スポーツを支える諸アクターのスポーツ実践の姿を象るに至った歴史的経緯を的確に裏書きすることであるが、総合型地域スポーツクラブの有効性を解説していくためには、何よりもまずそういったローカルな諸アクターのスポーツ実践の現実を分析しなければならない。なぜなら、余所者(ヨソモノ)が当該社会の固有の文化や歴史的経緯を無視して、自らの望ましいと考えるスポーツ実践の姿に誘導していくことは、倫理的に正当化されるのかどうか、という問題は総合型地域スポーツクラブ育成事業をめぐるほとんど取り上げられることはないからである。八王子市の事例から見えてくる一貫した主題は、体育協会であれ、レクリエーション協会であれ、スポーツ実践についての単純な説明を拒絶し、語り継がれる特有の社会史を生み出していたということである。そして、その裏では人知れず市民のスポーツ実践を支えている個人が大勢いる。自分たちが愛好する種目内で交差する紐帯と集団によって、長い時間をかけて等身大の変容を遂げてきた八王子市民が編み出した、まさに地域に暮らす住民の当事者性に、総合型地域スポーツクラブを育成しようとするアプローチは、これまでどれだけ寄り添ってこられたのだろうか。例えば、各領域には部分的なリーダーは数多くいるが、それぞれ何らかの限定された分野に関わっているのであって、八王子市全体のスポーツ活動を網羅するような広範囲のリーダーシップは存在するとは言い難い。勿論、理念として八王子市全体のスポーツ振興の発展を望んでいたが、市全体を包括する発展の方向性の視点をもっていただけではなく、個人、連盟や協会レベルでの振興を望む傾向が見られ、これらの多様なアクターを横断するような適切な調整能力を持ち合わせているとはいえる状況にはなかった。それは八王子市の市民スポーツが、完全に統

制された一枚岩の発展の経緯を歩んだのではなく、体育協会やレクリエーション協会といった組織が、それぞれに自分たちが直面してきた各課題に対して「自らの身の丈に合った」対処の仕方ですべてその都度乗り越えてきた経緯からも見て取れる。つまり、市民の間でのスポーツ振興の道筋は、突出した組織や有力者によって画一的・計画的に描き出されてきたものではなく、幾つものアクターや長い歴史の中で相互に絡み合った複数の束をしながら形成されてきたものなのである。

したがって総合型地域スポーツクラブの大きな問題とは、クラブをいかに運営するのかといった単にマネジメント的次元の問題だけではなく、市民スポーツの世界で織り上げられてきた多様なネットワークとそれが形作る社会力学的な「磁場」との関係性の問題でもある、と結論づけることができるだろう。そうしたスポーツ活動の歴史的・構造的背景を無視して、国や自治体レベルで策定されたスポーツ振興基本計画を後ろ盾に、多様なアクターを「総合型」という名の下にひとつのクラブとして無理矢理束ねようとする総合型地域スポーツクラブを推進する近年のスポーツ振興策の妥当性を、我々はもう一度真摯に捉えていく必要がある。

注

(注1) 桑都と言われ、古くから織物工業により栄えた八王子の織物の魅力を外国選手に知ってもらおうと、およそ1,000名の市民が選手たちを迎えて着物によるファッションショーが開催されたり、日本舞踊が紹介されたりした〔八王子市郷土資料館編、2008：40-41〕。

(注2) 1965(昭和40)年11月には八王子体育協会の後援で「第1回東京都スポーツ少年団交歓会」が開催された。

(注3) 『市政10周年記念誌』はかなりの古書で原典での確認がとれなかったため、『八王子市体育協会50年史』に記載されている「八王子市体育協会 創立50年をふりかえって」と題した関係者の座談会からの記事〔東京都八王子市体育協会、1996：25-26〕を引用した。

(注4) 1947(昭和22)年度の配給物資のうち国内物資

についてみると、1月より10月までの304日間に114日しか配給が行われなかった。この時代は食糧確保に関する不安動揺の徴候として配給督促の大会が開かれたり、近県に対して食糧の買い出しが殺到したりした。なお、八王子の第二次世界大戦の前後をめぐる食糧事情と配給生活の詳細については、『八王子市史』〔八王子市史編纂委員会、1980：1198-1226〕を参考にした。

(注5) 丸括弧の部分は筆者による加筆である。

(注6) 八王子市レクリエーション協会の歴史・概要については、主に瀬沼〔2004〕を参考にし、日本社会におけるレクリエーション協会の動向については、日本レクリエーション協会〔1998〕に依拠した。

(注7) 1951(昭和26)年からは、レクリエーション指導者認定制度が開始される。

(注8) トリムとは、ノルウェーに始まる健康・体力づくりを目的とするスポーツ、身体活動の普及ムーブメントのことである。スポーツ・医療・食事改善などにより、心身ともにバランスのとれた健康づくりを願って、積極的に心身を調整し、健康の維持・増進を図ることを目的とする。

(注9) 多い時期は、週に55講座余を開設する盛況ぶりであった〔八王子市レクリエーション協会、2008：43〕。

(注10) 学内の単位認定試験と卒業論文に合格すれば、レクリエーション上級指導者資格が取得できた。

(注11) 1977(昭和52)年頃から年間2～3回の頻度で、八王子市レクリエーション協会だより「タやけこやけ」を発行していたが、この機関紙に広報紙としての性格をもたせたのが「レジャー&レク」である。2005(平成17年)年11月号からは、ほぼ隔月発行となっている。

(注12) こうした市民サービス型事業を切り拓く新たな動きについては、日本レクリエーション協会〔1998：161〕を参照のこと。

(注13) この事業計画の文章については、瀬沼〔2004：50-51〕の報告から引用した。

(注14) 「子ども体験塾・サタディあそびの広場」とは、NPO法人八王子市レクリエーション協会の中に設置された「あそびの城づくり運営協議会」が中心となつて、毎月2回の土・日曜日に市内の小学校を活動場所に、子どもが安心して過ごせる場所を提供し、子どもに様々な体験をさせながら、子どもたちの成長に繋がるプログラムを提供するというものである。

参考文献

- 八王子市郷土資料館編(2008) オリンピックがやってきた！：市民の支えた熱き日々。八王子市教育委員会。
- 八王子市レクリエーション協会(1993) 八王子市レクリエーション協会創立20周年記念誌 あゆみ。八王子市レクリエーション協会。
- 八王子市レクリエーション協会(2008) 八王子市レクリエーション協会創立35周年記念誌 あゆみ。八王子市レクリエーション協会。
- 八王子市史編纂委員会(1980) 八王子市史 上巻。八王子市役所。
- 八王子市スポーツ振興基本計画策定委員会(2004) 八王子市スポーツ振興基本計画：市民の豊かなスポーツ生活の創造と地域社会の活性化 答申。
- 日本レクリエーション協会(1998) レクリエーション運動の五十年：日本レクリエーション協会五十年史。日本レクリエーション協会。
- 関根正敏・柳沢和雄・川邊保孝(2009) 総合型地域スポーツクラブ設立をめぐる正当性の確保と地域生活の歴史に関する研究。体育・スポーツ経営学研究 23(1)：33-47。
- 瀬沼克彰(2004) 30年の歴史を持つ八王子市レクリエーション協会。社会教育 59：48-51。
- 東京都八王子市体育協会(1996) 八王子市体育協会50年史。東京都八王子市体育協会。
- 鳥越皓之(1997) 環境社会学の理論と実践：生活環境主義の立場から。有斐閣。

